

# 近世哲学研究

第 7 号

蘭田 坦 教授 退官記念号

---

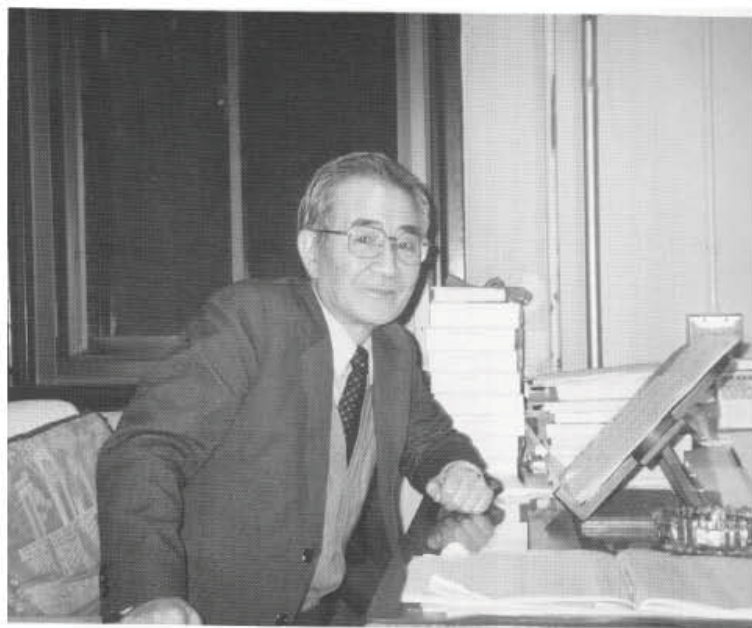
蘭田 坦 教授 略歴・業績一覧	1
《講演》	
近世哲学における神の問題	—— 蘭田 坦 9
* * *	
近世哲学とはなにか	—— 福谷 茂 28
——新しい哲学史像のために——	
人間の輪郭	—— 武藤 整司 47
——その曖昧さを擁護するために——	
知の自己吟味	—— 山脇 雅夫 71
——『精神の現象学』緒論における知と即自の区別について——	
ハイデッガーの良心論再考	—— 橋本 武志 89
——可能性概念を手がかりに——	
生と音楽	—— 折橋 康雄 115
——ディルタイに於ける生と音楽の時間性的問題をめぐって——	

---

2000

Epistola XIII

京大・西洋近世哲学史懇話会



藺田 坦 教授 近影

## 編集後記

『近世哲学研究』第七号を刊行することができ、慶びにたえない。お手元に届くのが遅くなってしまったのはお詫びするほかないが、今回はじめて編集作業の進行をつぶさに親睹して今更のように感じたことは、これだけの人数の団体で年三回の研究会と年一回の機関誌発行をおこなってゆくことの重みである。特に貴重な研究時間を割いて執筆された編集委員各位の労力と気配りにはその労を厚くねぎらうのみである。

発刊以来このような体制が伝えられ恙無く運営・刊行されてきたことを代々の担当者に感謝するとともに、当会と当誌の将来を更に磐石たらしめるため、とりわけ、若い世代が今後より一層この重みを分かち担ってくださることを切望する。

編集委員会代表として創刊以来ご指導を賜ってきた菌田坦先生は昨年三月三十一日をもって定年退官された。先生のご在職期間は文学部にとって、また、哲学科にとってまさしく激動の日々であったと申してよいから思うが、先生はいつも平常心をもって対処されてこられたようである。先生のお名前の由来は『論語』述而篇の「君子は坦（たい）かに蕩蕩たり」だと伺ったことがある。手近な国字解を見ると、「君子は平安

でのびのびしている」（金谷 治）、「君子の心境は屈託がなくてひろびろとしている」（木村英一）とあった。誠に名詮自性、抑制の効いた中庸を保たれながら時に囊中の錐は現れざるを得ず、衆望の自ずから鐘つた先生の風貌を一字に約していると思う。創刊以来、先生の苦心経営の辛苦をお慰めするべくもないが、『近世哲学研究』第七号にご退官を祝するささやかな Festschrift の意を寓することだけはお許しいただきたいと思う。

先生が今後ますます研究にご精進されることをお祈り申し上げ、また顧問として長く当会の行く末をお見守りくださることを切にお願いする次第である。

(F)

編集委員会	
代表	委員
福谷 茂	武藤 整司
	山脇 雅夫
	浅沼 光樹
	折橋 康雄

第1号 (1994)

祝辞	-----	酒井 修
ハイデッガーにおいて哲学を —— 現存在の現象学的存在論考究 ——	-----	田中 敦
カントと初期フィヒテとの接点	-----	北岡 武司
義務論としてのカント倫理学 —— 功利主義との対比 ——	-----	蔵田 伸雄
仮象と反省 —— ヘーゲルの矛盾概念の理解のために ——	-----	山脇 雅夫

第2号 (1995)

カント哲学における「経験」概念について —— 「世界」概念導入のための端緒として ——	-----	福谷 茂
ヘーゲルのコルポラツィオン論 —— 市民社会の団体主義的変革に向けたヘーゲルの試み ——	-----	早瀬 明
工学はどういうタイプの学問か	-----	齊藤 了文
信仰の情熱とその逆説 —— キェルケゴール『おそれとおののき』に おけるアブラハム解釈をめぐって ——	-----	田中 一馬
ハイデッガーのヘーゲル解釈 —— 意識の二義性と意識の転換 ——	-----	橋本 武志

第3号 (1996)

『全知識学の基礎』の到達点	-----	子野日 俊夫
読書人世界から学者共和国制度へ —— 理性を制度化しようとしたカントの試み ——	-----	福田 喜一郎
デカルトにおける愛の区別について	-----	武藤 整司
未済の人倫 —— 『精神の現象学』主-奴論の一解釈 ——	-----	石田 あゆみ
ガダマーのディルタイ批判 —— 『真理と方法』を中心に ——	-----	折橋 康雄

#### 第4号 (1997)

- 一本の綱(Seil)としての人間 ----- 吉川 康夫  
——ニヒリズム状況下に於ける人間と社会の問題——
- デカルトの懐疑について ----- 安藤 正人  
——『省察』の「反論と答弁」を資料として——
- 市民と国家の媒介 ----- 小川 清次  
——「国民」形成の一側面——
- 『存在と時間』に於ける可能性概念の多義性について ---- 橋本 武志
- 自然主義的存在論の隘路 ----- 次田 憲和  
——フッサールの「領域的存在論」における  
超越論的構成の「自己關係的構造」——

#### 第5号 (1998)

- 「常に誤る」と「時々誤る」 ----- 武藤 整司  
——デカルト的行論の一考察——
- ディルタイに於ける客観的精神の概念について ----- 折橋 康雄
- ハイデガーの他者論 ----- 安部 浩

#### 第6号 (1999)

- デカルトにおける《真理》と《存在》 ----- 倉田 隆  
——明晰かつ判明に知得されるもの——
- ヘーゲルの根拠論 ----- 山脇 雅夫  
——知と存在との相即——
- 「第五省察」の隔された論理 ----- 次田 憲和  
——フッサール『デカルト的省察』における  
「他者構成論」理解のための一視座——
- シェリング哲学の出発点 ----- 浅沼 光樹  
——人間的理性の起源と歴史の構成——

## 執筆者紹介

藪田 坦 龍谷大学教授・京都大学名誉教授  
福谷 茂 京都大学助教授  
武藤 整司 高知大学助教授  
山脇 雅夫 高野山大学講師  
橋本 武志 神戸商科大学非常勤講師  
折橋 康雄 日本学術振興会特別研究員

(執筆順)

近世哲学研究 第7号

2001年3月31日 発行

編集・発行 京大・西洋近世哲学史懇話会  
編集代表 福谷 茂  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部  
西洋近世哲学史研究室内  
<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/modephil/>  
TEL (075) 753-2444  
振替 01080-3-31430

印刷所 協和印刷株式会社  
〒615-0052 京都市右京区西院清水町13  
TEL (075) 312-4010(代)

定価 1200円(本体 1143円)

# STUDIES in MODERN PHILOSOPHY

No. 7

*Papers presented to Professor Tan SONODA  
in commemoration of his retirement*

---

Curriculum vitae and Bibliography of Prof. Tan SONODA	1
Tan SONODA : Das Gottesproblem in der neuzeitlichen Philosophie	9
* * *	
Shigeru FUKUTANI : Che cosa è la filosofia moderna ? — Per una nuova visione della storia della filosofia —	28
Seiji MUTÔ : On what makes us human beings	47
Masao YAMAWAKI : Das Wissen prüft sich selbst — Eine Interpretation der Methode von Hegels Phänomenologie des Geistes —	71
Takeshi HASHIMOTO : Zu Heideggers Gewissensanalyse — Anhand vom Begriff der Möglichkeit —	89
Yasuo ORIHASHI : Leben und die Musik — Über das Problem der Zeitlichkeit von Leben und Musik bei Dilthey —	115

---

2000

Epistola XIII

Published by  
The Society for The History of  
Modern Philosophy  
at Kyoto University